

骨密度検査で骨の丈夫さを知りましょう！

骨粗鬆症は、自覚症状がなく、知らないうちに進行することがほとんどです。

自覚症状がないからこそ定期的に骨密度検査を受けることが重要なのです。

「骨密度」は、骨粗鬆症を判定するための代表的な指標です。骨密度は若い人の骨密度の平均値と比べて自分の骨密度が何%であるかで表されます。骨密度が若い人の80%未満で要注意、70%以下になると、骨粗鬆症と診断されます。

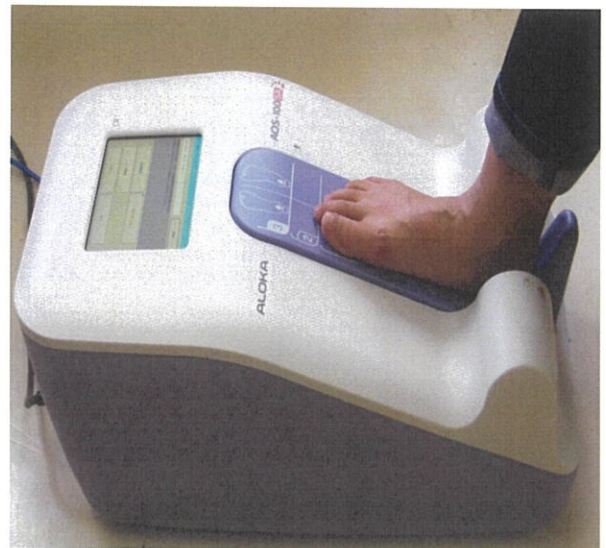
検査方法は主に DEXA 法と QUS 法がありますが、

* 当院では**定量的超音波測定法 (QUS)**

で検査しています。



かかとの骨に超音波を当て、骨の強さを反映する測定方法です。検診などで骨折リスクを簡単にスクリーニングする方法として普及しています。



骨密度検査は、骨の健康を知る上で重要な手がかりです。

特に女性では症状が無くても、50歳以上になったら半年～1年毎に骨密度を測りましょう。

検査により骨粗鬆症治療薬の効果判定にも繋がります。